

令和 5 年 5 月 25 日現在

機関番号：24505

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K10579

研究課題名（和文）統合失調症をもつ訪問看護利用者に対する認知機能障害ケアプログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a cognitive impairment care programme for home-visit nursing clients with schizophrenia.

研究代表者

片倉 直子（KATAKURA, NAOKO）

神戸市看護大学・看護学部・教授

研究者番号：60400818

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、神経・社会的認知機能障害を有する統合失調症をもつ訪問看護利用者へのアセスメントとケア方法を開発することである。アセスメントは、BACS-Jという統合失調症用の認知アセスメントツールを選び、ケア方法は、認知機能訓練（訓練）は、既存の「コグトレ（宮口，2015）」を参考に作成した。記憶機能、遂行機能、注意機能の認知機能領域をくみあわせ、訪問看護時間を1週～2週に1回60分と想定し、1回45分程度の訓練を12回分作成した。今後は、このケア方法を使用して、効果と実行可能性を検討していく予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究結果により、これまで経験的に訪問看護が提供していた認知機能障害のケアについて、根拠にもとづく体系的な看護を展開できるようになり、その障害を有する統合失調症をもつ訪問看護利用者の日常生活能力や就労に役立つことが期待できる。また、この領域に初めて関わる訪問看護師が、理論的根拠を踏まえた上でケアの方向性を実践しやすくなる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to develop assessment and care methods for clients with schizophrenia using home-visit nursing, who have neuro-social cognitive impairment. For the assessment, a cognitive assessment tool for schizophrenia called BACS-J was chosen, and for the care method, cognitive function training (training) was developed based on the existing Cogtrain (Miyaguchi, 2015). The cognitive function domains of memory function, executive function and attention function were combined, and 12 training sessions of about 45 minutes each were created, assuming that home-visit nursing time was 60 minutes once every 1-2 weeks. The effectiveness and feasibility of this care method will be investigated in the future.

研究分野：在宅看護学

キーワード：統合失調症 認知機能障害 訪問看護 認知機能訓練

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

精神科訪問看護の提供を受けている利用者の多くは統合失調症に罹患しており、この疾患とケアの理解が重要である。研究代表者は、統合失調症をもつ利用者に訪問看護を提供した時、彼らの認知のゆがみや対人関係上の思い込みに対する修正をすることが多かった。これは申請者の経験だけではなく、調査対象の訪問看護師も語っていた(片倉他, 2007)。統合失調症は、幻聴・幻覚といった陽性症状、および引きこもりや自閉、無気力といった陰性症状に注目されがちである。しかし、最近、神経認知機能(注意力・記憶力・遂行機能等)の障害がこの病気の中核症状であることが明らかになってきている(兼田, 2008)。社会復帰には精神症状よりも神経認知機能が深くかかわっている報告もあり(Green, 1999)。在宅において彼らの認知機能障害を訪問看護師がアセスメントし、ケアを提供する必要性が増していると推測するが、その体系的な方法は、現在、十分提案されていない。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、認知機能障害を有する統合失調症をもつ訪問看護利用者へのアセスメントとケア方法を開発することである。

### 3. 研究の方法

訪問看護において使用可能な認知機能のアセスメントと、それにもとづくケア方法を検討し、認知機能訓練を作成した。

訪問看護の時間的制限を考慮し、10~20分程度で完了し、神経認知を網羅的に評価できるアセスメントとしての検査を、国内外の医学・看護学・作業療法学・心理学領域の文献や、アメリカの Psychiatric Mental Health Nurse Practitioner (PMHNP) が使用している評価尺度を参考に抽出した。

ケア方法も、訪問看護の時間的制限を考慮し、また個別に自宅で実施できる方法を、国内外の医学・看護学・作業療法学・心理学領域の文献や、アメリカの PMHNP が使用している方法を検討した。

検討した認知機能のアセスメントとケア方法を、認知機能障害がある統合失調症をもつ訪問看護利用者へ研究者が試行し、その効果や訪問看護における実現可能性を検討する。

### 4. 研究成果

#### (1) 認知機能アセスメント

認知機能のアセスメントは、30分程度で検査可能な認知機能検査バッテリーである The Brief Assessment of Cognition in Schizophrenia Japanese version (BACS-J) を選択した(Kaneda et al., 2013)。BACS-Jは、統合失調症の認知機能状態を、幅広く、また簡便に評価しうる尺度である。ライセンス契約が必要なので訪問看護で日常的に使用するには難しいが、専門家が認知機能状態を評価したり、ケアの評価をする際に活用できる。

訪問看護で使用しやすい認知機能のアセスメントとして、Montreal Cognitive Assessment Japanese version (MoCA-J)がある(Fujiware et al., 2010)。MoCAは、14項目のスクリーニングにより高次脳領域の認知機能の評価する検査で、10分程度の時間で終了する(Nasreddine et al., 2005)。もともと軽度認知症の高齢者の認知機能検査のための検査であったが、これまで脳卒中(Cumming et al., 2011)、知的障害(Edge et al., 2016)、睡眠障害(Edge et al., 2016)、依存症(Copersino et al., 2009)にも適用されている。MoCAとBACSとの関連に関する先行研究は、統合失調症における高度あるいは軽度の認知機能障害に高い判別率を示しており、軽度認知機能障害のカットオフ値は30点満点のうち25点未満、高度障害は23点未満としている(Yang et al., 2018)。したがって、訪問看護で統合失調症をもつ利用者の認知機能障害を第一にスクリーニングする際に、MoCA-Jを使用してその程度をアセスメントすることができる。

したがって、訪問看護で使用する認知機能アセスメントはMoCA-Jを、ケアの介入効果を評価するためにBACS-Jを使用することにした。

#### (2) 認知機能訓練をとりいれたケア方法について

主に神経認知機能障害を改善するための認知機能訓練プログラムを検討した。先行研究において、統合失調症向けの認知矯正療法(CRT)プログラムがターゲットとした認知機能領域は、記憶機能、遂行機能、注意機能で、方法は2週間に1回60分の訓練であった。したがって、これらの認知機能領域を訓練する紙と鉛筆によるドリル形式である「コグトレ(宮口, 2015)」の一部を活用して、認知機能訓練プログラムを考案した。「コグトレ」は、高齢者の認知症予防、高次脳機能障害の認知機能リハビリテーションに利用可能とされている。本研究の認知機能訓練(訓練)では、記憶機能、遂行機能、注意機能の3領域を対象とすることから、「コグトレ」のうち、それらの認知機能領域をくみあわせ、訪問看護時間を1週~2週に1回60分と想定し、1回45分程度の訓練を12回分作成した。したがって、訓練は研究参加者1人に最短3か月、最長半年を要する。訓練1回分には複数の課題があり、難易度や順番、記憶する方略等が設定され

ている。

(3) ケアの効果と訪問看護における実現可能性について

研究代表者の所属機関に近い訪問看護ステーション 4 件に、訓練を希望しそうな認知機能障害を伴った統合失調症をもつ利用者の紹介を依頼したが、現在、希望する訪問看護ステーションと利用者が見つかっていない。慢性の精神障害者は、信頼関係がない者を受け入れないことが往々にしてあるので、今後は研究代表者が関わっている通所施設の利用者に依頼していく予定である。

<引用文献>

Copersino, M. L., Fals-Stewart, W., Fitzmaurice, G. et al. (2009): Rapid cognitive screening of patients with substance use disorders, 17(5), 337-344.

Cumming, T. B., Bernhardt, J., & Linden, T. (2011): The Montreal Cognitive Assessment Short Cognitive Evaluation in a Large Stroke Trial, Stroke, 42, 2642-2644.

Edge, D., Oyefesa, A., Evans, C., et al. (2015): The utility of the Montreal Cognitive Assessment as a mental capacity assessment tool for patients with a learning disability, 44, 240-246.

Fujiwara Y et al. (2010): Brief screening tool for mild cognitive impairment in older Japanese: Validation of the Japanese version of the Montreal Cognitive Assessment, Geriatr Gerontol Int, 10, 225-232.

Green MF, Nuechterlein KH. (1999): Should Schizophrenia be treated as a neurocognitive disorder? . Schizophrenia Bulletin, 25(2), 309-318.

片倉直子、山本則子、石垣和子、(2007): 統合失調症をもつ利用者に対する効果的な訪問看護の目的と技術に関する研究、日本看護科学学会誌、27(2)、80-91.

兼田康宏他 (2008): 統合失調症認知機能簡易評価尺度日本語版(BACS-J) . 精神医学、50 (9)、913-917 .

Kaneda, Y., Ohmori, T., Okahisa, Y., et al. (2013): Measurement and treatment research to improve cognition in schizophrenia consensus cognitive battery, 67(3). 182-188.

宮口幸治(2015): コグトレ みる・きく・想像するための認知機能強化トレーニング、三輪書店、東京 .

Nasreddine Z.S., Phillips N.A., Bédirian V., et al. (2005): The Montreal Cognitive Assessment, MoCA: a brief screening tool for mild cognitive impairment, Journal of the American Geriatrics Society, 53(4), 695-699.

Yang, Z., Abdul R., Yue, F. Q., et al. (2018): Montreal Cognitive Assessment as a screening instrument for cognitive impairments in schizophrenia, Schizophrenia Research, 199, 58-63.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松澤 和正  (MATSUZAWA Kazumasa)  (00383092)	帝京大学・医療技術学部・教授   (32643)	
研究分担者	加藤 憲司  (KATO Kenji)  (70458404)	神戸女子大学・看護学部・教授   (34511)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	上月 頼子  (KOZUKI Yoriko)	ワシントン大学看護学部・University of Washington School of Nursing	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
米国	University of Washington		
米国	ワシントン大学看護学部		